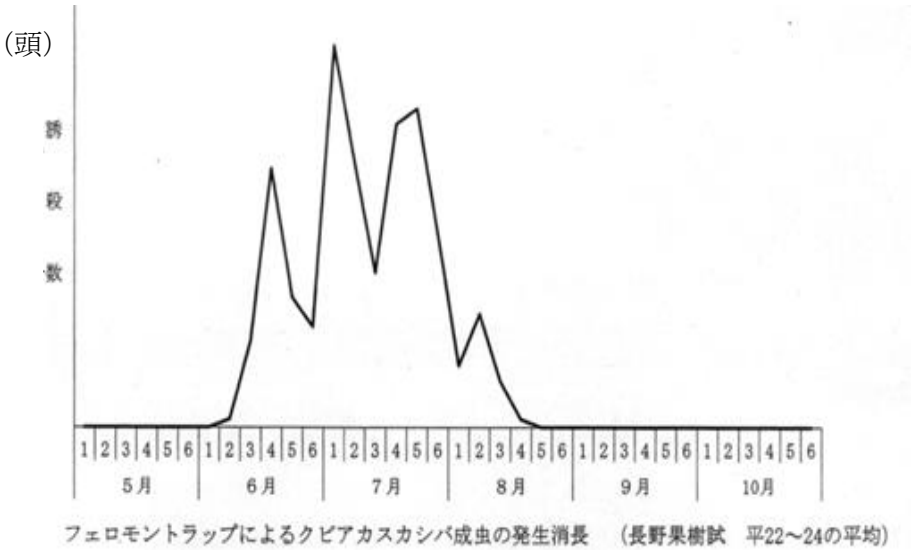


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

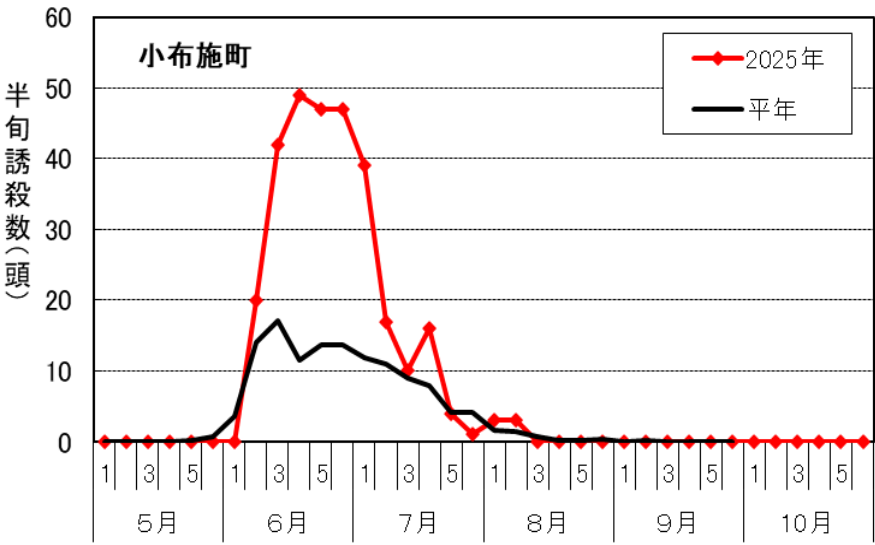
2010年から2012年までの消長模式図（果樹試験場内）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年1回発生する。
- ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところでは土繭をつくり越冬する。
- ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
- ・落花10日後（果粒の小豆大期）までと7月下旬から8月上旬（袋掛け後）の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の被害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町（病虫害防除部）



【調査地点】（標高約340m）

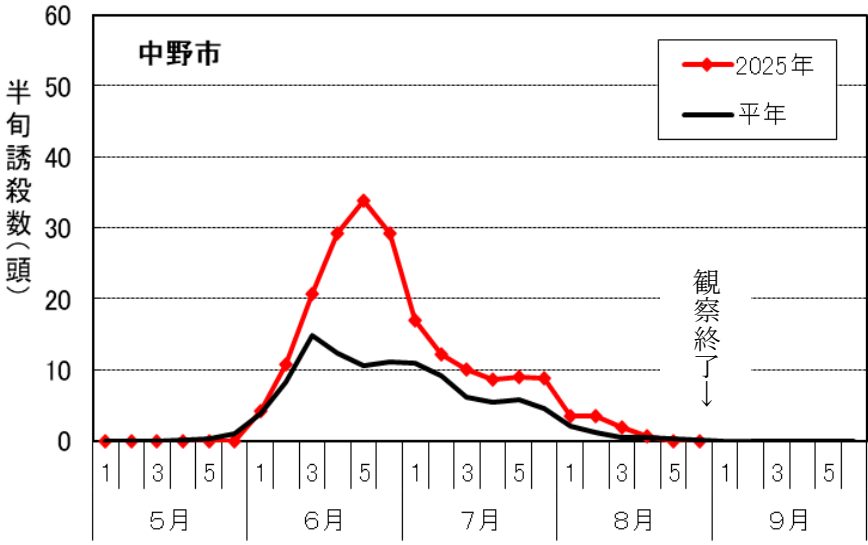
- ・小布施町（ぶどうほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

・本年は、初誘殺は平年より半旬遅かったが、その後急激に誘殺頭数が増加し、6月第4半旬に迎えたピーク時は、平年の約4倍の誘殺頭数を記録した。年間の総誘殺頭数は平年の2倍強であった。

誘殺がみられなくなったのは8月中旬で、平年とほぼ同じであり、発生期間は平年と変わりなかった。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約360m）

- ・中野市（ぶどうほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

・初誘殺は6月第1半旬と平年並であり、誘殺が記録されなくなったのは8月第5半旬で、こちらもほぼ平年並であった。平年と異なるのはピークの時期で、平年は8月前半であるが、本年は8月後半とやや遅くなっていた。

・誘殺頭数は平年より多く、年間総誘殺頭数は平年の2倍弱であった。